



【写真】昭和30年代の京町

ひとを結ぶ。 まちを結ぶ。 地域おこし協力隊

column
No.95

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指しながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。市で活動する6人の隊員たちの活動を紹介します。
【問】市商工・ブランド振興課 (☎77・8722)

新たな夜の柳川の魅力を創出



新しいお堀の魅力を創出 水辺の夜市を開催

堀を使った新たな観光創出、日帰り観光から滞在型観光への転換を図るため、市観光協会は9月16日から18日まで「やながわ水辺の夜市」を開催します。コロナの影響で、当初の計画から2年越しの開催となり、個人的にはとても心待ちにしています。

市民文化会館から沖端までの掘割とその周辺をメイン会場に、装飾に包まれたプレイランドやナイトサーカス、飲食や物販を行うナイトマーケット、光の演出を楽しむ川下りなど世代を問わず楽しんでもらえるイベントが盛りだくさん。沖端の観光エリアと市民文化会館を結ぶ散策ルートは、新たなお堀の魅力創出につながると思います。日没後のお堀活用に着目した「やながわ水辺の夜市」。皆さんも参加して、新たな柳川の夜の魅力に触れてみませんか。イベント内容は広報やながわ9月1日号の7ページか水辺の夜市公式Instagramをご覧ください。



水辺の夜市

闇千代の甲冑を身に着けPR (右から2人目)



宗茂、闇千代になりきり 柳川を全国に発信

梅雨の晴れ間の6月15日、BSよしもとの「となりマッチ」というネット番組の収録に出演しました。この番組は、隣り合う市町村同士がチームに分かれ、お隣さんには負けない我がまちのアピールポイントをプレゼンし合うものです。この日はみやま市さんとの対決でした。

柳川市は、食、観光、歴史を紹介。食は「うなぎのせいろ蒸し」、観光は「川下り」、そして歴史の分野は立花宗茂と闇千代をPRしました。おこし隊の堤さんが宗茂の甲冑を、私は闇千代の甲冑を身にまとい、「西国無双の誉れ高き宗茂が妻、闇千代」と声高らかに口上を述べ、無事に役目を果たすことができました。なお、PR対決は仲良く引き分けでした。

今回の収録で身に着けた宗茂と闇千代の甲冑は、大河ドラマ招致活動にちなんだイベントのときに市民の皆さんも試着することができます。新型コロナウイルスの感染状況次第ではありますが、甲冑を身に着け、宗茂や闇千代になりきってみてはいかがでしょうか。



竹下 政志 (51歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当



楠田 千佳 (46歳)

【プロフィール】市観光課に所属。柳川プロモーションを担当

今回紹介するのは、珍しい昭和30年代のカラー写真です。カラーフィルムは戦前からありましたが、非常に高価で、現像所の数も少なかったため、一般に普及したのは昭和40年代といわれています。

撮影場所は、現在の京町の柳川よかもん館付近。映画館スバル座(片原町)の看板は、昭和32(1957)年1月22日公開の『最後の突撃』(日活)です。同日スバル座では『哀愁の園』『乳母車』(ともに日活)を上映しており、『最後の突撃』がスバル座にやってきたのはこの日より数週間ほど後だったと思われれます。極彩色の大きな絵看板は、最近では見られなくなりました。

看板の前には4ドアのセダンが停まっています。ナンバーの冒頭「福3」は福岡陸運支局(現在の福岡運輸支局)で登録された普通自動車という意味で、昭和26年から30年ま

昭和30年代のモーメント 柳川古文書館 梅本 真央

で発行された様式です。バンパーには「鯉節」と呼ばれるオーバライダー、側面にはサイドモールドが付いています。これら装飾を兼ねた保護パーツも、近年はあまり見かけなくなりました。縦長のテールライトにも時代を感じます。また、テールライトの部分はやや突き出していて、1950年代にアメリカで流行した「テールフィン」のごく初期のもののように見えます。一般家庭で自動車が必要となり、クルマ社会が到来するのは1960年代のこと。「マイカー元年」と呼ばれる昭和41年に先駆けて京町通りに現れたセダンは、未来の予感をはらんでいます。

セダンとは対照的に、道行く女性は風呂敷包みを持った着物姿。変化に富んだ時代をカラーでとらえた写真は、目にも鮮やかに街の移ろいを伝えてくれます。

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月1日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。
【問】市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)